

法華寺境内の調査（平城第 363 次）

平城宮の東側に隣接する法華寺では、新たに防災施設を敷設するために、事前調査として8月より発掘をおこなっています。調査区が境内をほぼ全周するかたちでめぐっているため、調査開始より4ヶ月たった今でも調査が続いています。

調査区の幅が1mと狭いため、遺構の状況がわかる範囲も限られていますが、それでも興味深い成果があげられつつあります。

例えば、本堂の北東にある光月亭の周囲では、かつて建てられていた建物の基壇が見つかりました。この基壇の時期は中～近世と考えられます。

また本堂と鐘楼の間では、近世の池の痕跡が検出されたほか、建物の柱根が2本も検出されました。いずれも直径60cm近い立派なものです。これらの柱根の位置から、かつてこの場所に南北4間、東西7間の建物が建てられていたことがわかりました。ただし、この建物の時期についてはよくわかりません。

11月以降は本堂の南面や、鐘楼周辺の調査になりますが、本堂の南面にもかつて建物が存在していたことがわかっていますので、今後の調査で新たな情報が得られることが期待されます。

（平城宮跡発掘調査部 林 正憲）



調査区全景（左下が柱穴）